

 <p>大分県要約筆記サークル</p> <h1>陽ざしの会</h1>	<p>第 82 号 発行日 平成 29 年 3 月 18 日 発行所 大分県要約筆記サークル 「陽ざしの会」 発行者 津田 文子 事務局 欧陽 美果 (tyo-san@ctb.ne.jp) (HP http://hizasi.web.fc2.com)</p>
---	---

要約筆記ミニ講演会

於 大分県立由布高等学校

～聴覚障がいのこと、要約筆記の必要性～



「できること」「できるだけ」「できる時」
お互いの立場を思いやって

昨年 12 月 15 日(木)、大分県立由布高等学校 3 年 2 組の授業の時間をいただいて池邊恵子さんを講師にミニ講演会を開きました。周知事業の一環で何か新しいやり方を模索していた私たちサークル会員。今年度の活動始動に初の試みとして、自分の子供が在籍している大分県立由布高等学校の江川校長先生のご尽力のもと、実現しました。 広報部長 久松久仁子

体験学習

要約筆記ミニ講演会が本校 3 年 2 組総合進学コースの 38 名を対象として実施されました。生徒たちは「聴覚障がいの基礎知識」「聴覚障がいの多様性」「聴覚障がいのコミュニケーション手段」などの講義を受け、要約筆記の体験学習も行いました。 見学された教員より

以下は生徒の感想です。

「手話ができなくても要約筆記で人を助けることができると思いました。」「聴覚障がいは 1 種類のものととらえていましたが、実際は色んなものがあると知ることができ、これからの人生にとっても役に立つことを教えてもらいました。」

県立由布高等学校ミニ講演会 アンケート結果



今後の活動のために、また生徒の皆さんにも再認識してもらうために、アンケートを取らせていただきました。(回答者38名)

Q1～3は、わかった、わからなかった、あまりわからなかった、全くわからなかったに分けて回答。

Q1.聴覚障がいについて、よくわかりましたか。

よくわかった：25、だいたいわかった：11

Q2.要約筆記がどういうものか、わかりましたか。

よくわかった：22、だいたいわかった：14

Q3.要約筆記者は何をする人か、わかりましたか。

よくわかった：22、だいたいわかった：14

Q4.講座に参加して、要約筆記に興味をもちましたか。

興味をもった：9、少し興味をもった：22

あまり興味をもたなかった：4

Q5.本日のこの授業を後輩にも受けてもらいたいですか。

ぜひ受けてもらいたい：20

受けてもらったほうがよい：14



Q6.本日の授業について、感想を自由に書いてください。(一部をご紹介します)

要約筆記の存在を知らなかった、知ることができて良かった。社会人になって職場に聴覚障がい者がいたら色々なコミュニケーションを図ろうと思った。手話じゃないと話せないと思っていた、筆談でもいいんだと思った。聴覚障がい者の大変さを知ることができた。コミュニケーション方法の種類がたくさんあることを知った。話ができて耳が聞こえない人がいるって初めて知った。要約の技術もアプリもすごいと思った。聞こえない人に手話ができない人がいることは勉強になった。聞こえないのは不便だと思った。障がい者の存在を意識できるようになったと思う。医療関係を目指しているので役立てたい。素敵なサークルだと思った。



紙とペンがなくても…大丈夫

筆談アプリや筆談専用機器の紹介もしました。

保護者も参加

終わってすぐに「他の学年でもして欲しい」「聴覚障がいの種類があんなにあるなんて知らなかった」などの意見が保護者から出されました。

参加した保護者の感想

「筆談との違いや、簡潔に伝えることの難しさなど、とても勉強になりました。

何よりもちょっと肩をたたき、声をかける勇気を持つことが大切だと感じました。」

下川恵美子

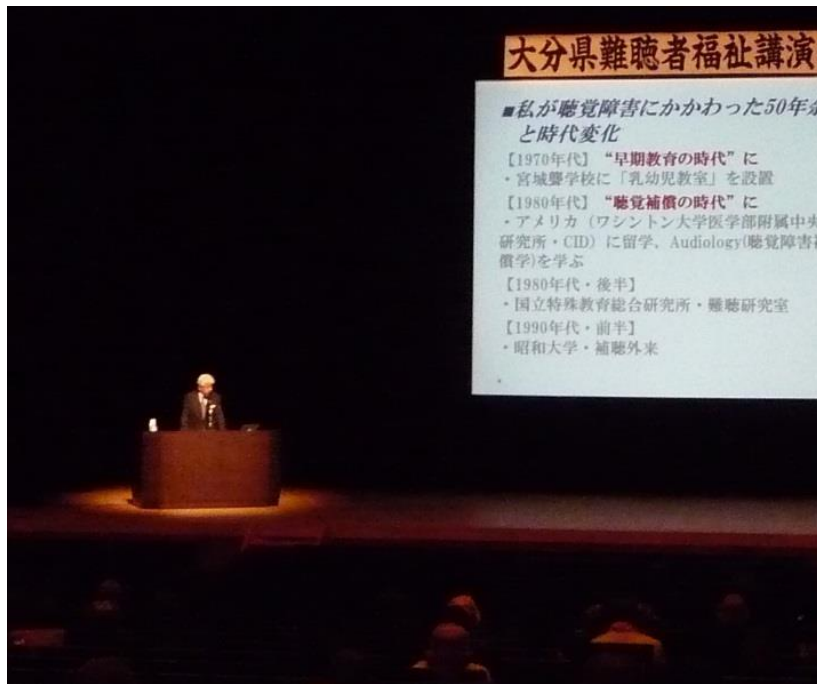
由布高校訪問

チャイムと共に三三五五生徒が集まってきた。講師の説明は簡潔で分かりやすかった。が、生徒にとっては、初めて体験する要約筆記。戸惑いの表情を見せながらも、まじめに聞いていた。ある生徒の隣席が休みのため、私が代役を果たした。筆談の際のコミュニケーションの取り方を考えたり、文章を要約するには、まったく追いつかず焦っていた。そこで私が、要約するということは、「こうじゃ」と実際にやってみると、感心していた。そこで私は思った。講師の説明を聞き、体験をするとき、近くにわかる人がいると、生徒の理解の助けになるのではないかと。

陽ざしの会 的野慶子



筆談&要約筆記体験に戸惑いながらも熱心に話を聞いてくれた生徒のみなさん。



「なぜ聞こえの問題は理解されにくいのか!? 難聴への新しい対応と展望」をテーマに1月29日、ホルトホール大分で県難聴者福祉講演会が開催された。

講師の大沼直紀さんは、難聴をめぐる社会環境の変化として、1990年代は手話と人工内耳の時代が共存。2000年代に入り、聴覚補償から情報保障の時代へ。(耳だけを補えばいいという世界から、情報を補う世界へ。) 現在は、聞こえのバリアフリー・コンフリクト対応の時代へ変わってきたと分析。聞こえの問題は人とのつながりが疎くなること。周囲からは障害が見えず、苦しみを想像できない。周りができるのは聞き取りやすい話し方。本人のコミしたいという意欲が一番大事で、聴能を育てることの重要性も語った。

第2部では、主催の県難聴者協会の小倉会長が協会の活動を紹介。女性の社会的環境が、時代とともに向上してきたように、難聴者の置かれている立場の改善に向け、社会に働きかけることも大切と訴えた。陽ざしの会からは、久松広報部長が要約筆記をDVDで紹介。利用を呼びかけた。

この日の参加者は約110名。ほかに陽ざしの会などから約20名がスタッフとして参加協力し、大会を支えた。(小寺淑子)

今後のご協力を 大分県難聴者協会会長 小倉鉄郎

2年前、全難聴全国大会(香川県)で、大沼先生を紹介していただいたところから今回の企画は動き始めました。それからは会場の確保、ポスターの製作、協賛、後援、周知など、考えに考え先手先手でと全力で走ってまいりました。

想定通りにいかないところもありましたが、スタッフの皆様の適切なフォローが得られ、成功裏に終わることができました。潜在的なニーズは確信できていますので、これからも定期的開催していきたいと思っています。今後ともご協力をお願いします。



ぶんご梅

私の仕事

私は普段、自宅で癒しの仕事をしています。きっかけは介護。働きながら高齢の親の様子を見ることが可能な仕事です。

来客に備えて玄関に花を飾ると、母は大喜び。「いつも綺麗に飾ってくれてありがとう」といってくれます。認知症でも好きなものや楽しいことはきちんとわかります。もちろん、嫌いなことイヤなこととは好き以上に反応します。

時々いろんなことが重なり「きーっ」となったときには背中をさすってあげます。そうするとオキシトシンという幸せホルモンが出るんです。これは親子でも夫婦でも他人にでも同じ作用があります。

最近、老人施設でも癒しを取り入れていくところが多く、私は時々施設へボランティア活動に行っています。私のことは覚えていなくても気持ちよかったことは記憶に残っているようで、嬉しそうに手を出してくれます。ここではハンドケアをするのですがほんの十分でも寝てくれます。ソファに座っていたり車いすに座っていたり、場所はそれぞれですが気持ち良さそうにしている姿は私の癒しです。

日々様子が変わり、終わりの正解もわからない介護ですが、癒しとミックスしてできる今の仕事はこれからも続けていきます。

ぶんご梅は創刊以来続いている会員のエッセーです。

梅崎 照美





字幕リサーチャー講演会



2016年12月4日、全国要約筆記問題研究会理事 川野桂子氏を講師にお招きし、講演会を開催しました。
陽ざしの会では、啓発活動の一環として、字幕リサーチャーの活動を進めていきます。



字幕リサーチャーとは？

美術館、博物館や観光地などに赴き、そこにある視覚情報(ビデオ、DVD など)に字幕があるかどうかを調査します。

字幕が付くことで、内容がわかりやすくなり、施設の新たな一面を知ることができます。他にも、耳マークや筆談具など、聞こえの不自由な方への配慮があるのかも確認します。調査結果をもとに、施設の方々とお話しし、字幕の必要性などの理解を広げます。

字幕リサーチャー活動の目的

- 1、 筆談の対応があるかを確認する。
聞こえの不自由な方への配慮を促す。
- 2、 差別解消法の研修会を実施したので、それを具体化する。
差別解消法の研修会で学んだことを字幕リサーチャーの活動で活かす。
- 3、 堅苦しい研修ばかりではなく、メンバー同士の交流を図る。



活動を行う上で、最も大切なことは相手と良い関係を作ること。

一度ですべてを理解してもらおうとせず、何度でもお話ができる関係を作りましょう。

これは、要約筆記の活動をしていくときにも心掛けないといけないことです。

利用者に、もう一度要約筆記を利用したいと思っていただけるように、活動していきたいですね。

受講者の声

- 字幕は高齢者にも優しい手段。
一度字幕を付ければ、変更になるまで同じものが使えるのは利点。
- 聴こえない側として、字幕があればいいと思うことはよくあるが、簡単につけられるものではないと感じた。
満足のいく結果にならなくとも、働きかける姿勢が大事なのだと感じた。
- 地道に継続されていて素晴らしい。
文字に起こす文章は話し言葉とは違うため難しい。リアルタイムでは更に大変だろうと思った。
- 今まで字幕などについて意識してこなかったが、改めて、聞こえの不自由な方々は困っていることがわかった。
- 情報保障について、もっと強調していくべき。
リサーチは字幕問題で最も必要な活動。共感・激励も多いので頑張ってもらいたい。
- 自分たちに協力できることを知りたい。

新人さんいらっしゃい

①お住まいは ②趣味 ③入会のきっかけ



よろしく
お願いです



原田 枝美 えだみ
①別府市 ②体を動かすこと ③手話卒業後、他のコミ方法を見て、要約筆記が気になった。

森崎 百合子 ①大分市金谷迫
(大分インターの近くの山の中)
②園芸。③去年、手話を受講していたときに、初めて要約筆記の存在を知り、興味を持ったことからです。

柳井 紀子 みちこ
①佐伯市 ②今年は畑仕事。③ずばり、要約とは何かを学びたかったから。力不足を感じています。

佐藤 加奈子 ①大分市東大道
②音楽鑑賞(ジャンル不問) ③手話講習会終了後、次のステップを探していた。

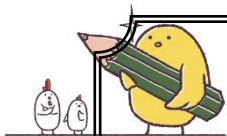


「陽ざしの会の歩み」

児玉 幸代

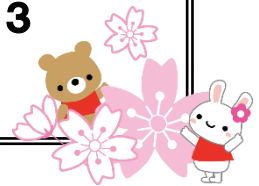
長い間、本当に本当にありがとうございました。
要約筆記に出会い、難聴者協会の方々と一緒に活動することができて忙しかったけれど、一言では言えない喜びと学びがありました。陽ざしの会の仲間感謝しています。

歩み 完



要約筆記の勉強部屋 Part13

～筆子の覚書～



2016年度全国統一要約筆記者認定試験が、去る2月19日に開催され、手書き3名、パソコン6名(両方受験1名)のあわせて8名が受験されました。全員合格を達成してほしいです。

さて、私筆子は、昨年度3回目の挑戦で、無事に認定試験に合格することができました。ただし、パソコンでの合格なので、次の目標は手書きでの合格です。今年度は諸事情により受験を申し込まなかったため、来年度に向けて再挑戦を考えています。



ちょっと失礼～！筆子さん合格おめでとうございます！努力を続けられたことに敬意を表します。そういえば、これまで合格者のお名前を会報でお伝えしたことがなかったですね。実は、大分では12名の方が合格されているんです。では、みなさんのお名前をご紹介しますね。
朝木さん、欧陽(朝山)さん、池邊さん、久保田さん、小寺さん、野上さん、東さん、平野さん、広瀬さん、藤井さん、そして筆子さんこと山口さんと私、津田です。
会員の皆さん、来年度も認定試験合格に向けて頑張ってください！
ある人が「派遣を受けるなら要約筆記者を目指せ！」ってゲキを飛ばしていましたよ。

おっと、いきなりの会長登場でびっくりしましたが、お祝いコメントありがとうございます。では気持ちを切り替えて・・・
この要約筆記者認定試験ですが、2011年度から始まり、大分では今年で4回目の開催です。しかし、年々受験者数は減少しています。
受けない理由はさまざまですが、なぜ認定試験を受ける必要があるのか、考察してみたいと思います。



忙しくて勉強する時間なんてとれない。

試験に落ちたら恥ずかしいもん。

ホンネ

別に合格しなくて、派遣業務に就けるしさ。今までと変わらないじゃん。

合格するメリットって何かある？

皆さんの本音が聞こえてきました。でも、これって自分を中心とした考え方ではないでしょうか。私たちは、自分のために要約筆記をしているのでしょうか？

中日新聞2月16日の記事に、難聴者の方のインタビューが掲載されていました。それによると、「困るのは病院など専門用語での説明があるとき。高い意識と資格を持って通訳してもらおうと安心する」とのことでした。これが利用者の方の本音です。

実際のところ、試験の合否に関係なく派遣業務はできるので、試験合格に格別のメリットはありません。

でも、試験勉強をすれば最新情報もわかるし、技術も向上する。受験するだけが目的ではなくて、向上心を持ち難聴者のためにより良い情報保障をするために努力を続けてほしい、という思いがこの試験に込められています。

陽ざしの会では、毎年試験対策勉強会を開いています。勉強会に参加し、試験勉強をすることで、自身のステップアップが図れると思います。

合格を目指している人だけでなく、すでに合格している人も、受験に迷っている人も、必要ないと思っている人も、今一度要約筆記の原点「速く、正しく、読みやすく」に立ち返り、難聴者の方が疲れず、見やすい要約筆記を目指してほしい、と切に願います。

(次号へ続く)



ランチ忘年会を楽しむ



昨年末 12月 17日に会員交流会を行いました。明野の「梅の花」にてランチ忘年会という新しい試みで、参加者は 12名。女性には嬉しい美味しくヘルシーな豆腐料理に舌鼓をうちながら、和やかな雰囲気でも話も弾みました。

会員さんのおめでたいご報告があったり、黒一点？の男性参加者のお酒の強さに驚いたり、皆さんの意外な一面を知ることができ、楽しい時間を過ごしました。余談ですが、そのお店が気に入ったある方は、その後 2回もでかけられたとのこと。

企画部長 小野 和子

ICレコーダーを購入 ご利用ください

会員、講師が要約筆記の学習に使用の際は、自由にお使いください。持ち帰る場合は会長に連絡を。陽ざしの会のロッカーに保管中。



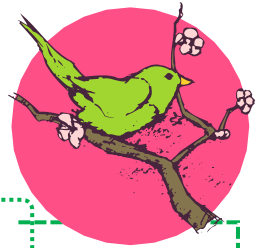
左:スピーカー、右:ICレコーダー(SDカード使用可)



ラジカセ (USB と microSD も使える) も購入。

研修部から 学習用音源と音起こし文募集中!!

役員のみなさん



1年間お疲れ様でした。そしてありがとうございました。
役員からメッセージをいただきましたのでここでご紹介します。

会長

思い出がいっぱい

津田文子

1年間だけの約束で引き受けた会長職を何とか無事に終えることができました。こう言えるのも期間中私をささえてくださった久保田さんと欧陽さんを始めとする役員の方々のお陰です。加えて会員の皆様の御協力の賜物です。ありがとうございました。

これからは、会員の皆様が順に会長を務めていく時代です。由布高生に「素敵なサークル」と言わしめた、我らが会のより一層の発展のためにも全員平等参加型の活発にして円滑な会の運営を望みます。

活動の継続が大切

久保田安紀

不安いっぱいでも始まった副会長でした。一番の課題の周知事業も会員の皆さんの御協力のおかげで講演会を終えることができました。来年度からの活動も引き続きリサーチの実行に向けてよろしくお願いたします。

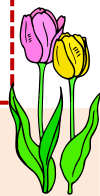
副会長

助け合いが必要

事務局長
欧陽(朝山)美果

「今できることをやろう」と思い、引き受けた事務局でしたが、会長、副会長、各部の部長や会計担当のみなさんがいないと務め上げられませんでした。これからもみんなが無理をせず、助け合いながら活動できる体制になるとよいのかなと思いました。心から感謝しています。

事務局



研修部
P
C

参加したい学習会を目指して

三重野真由美

会員のみなさんが行きたいと思う学習会とは？と暗中模索の1年。「速く、正しく、読みやすく」。歳月不待、自分への戒めです。

いろんな事があった2年間

会計

山口智子

2年間、会計を務めさせていただきました。途中、前森崎会長の訃報もあり、感慨深いものがあります。本当にありがとうございました。

成長の肥やしは失敗

研修部手書き

青木奈津子

1年間ありがとうございました。反省点は多々ありますが、来年度の学習会に活かしていけるように、今後も皆さまのご協力をお願いいたします。

楽しんで頂けましたか

久松久仁子

この1年間3度の広報紙を予定通りに発行することができました。失敗もしましたが楽しい紙面にできたのは皆さんのお陰です。

広報部

企画部

皆さんの参加待ってます

小野和子

昨年末の「梅の花」での会員交流会は美味しい食事に話も盛り上がり楽しい時間を過ごせました。今後予定している企画にもぜひ皆さんご参加ください。

編集後記

私の家の近くの山では、2月の終わりごろ鶯がホーホケツと鳴き始め、春を感じているところです。また、新たな1年がスタートしますね。今年度は新風を吹かせ活動してきました。きっと、思ったようにできなかったこともあったでしょう。失敗があつてこそ成長するもの…。チャレンジ続行ですね。 広報部長 久松久仁子

会計監査

野上千賀子さん、平野美佐子さん、ありがとうございました。